

敬老会と献血活動の報告

会長 大形 則義

日頃より地区社会福祉活動にご支援いただき有難うございます。

さて、令和4年度の活動につきましては、委員会（総会）において書面議決により事業計画のご承認を頂き、推進しておりますが、以下敬老会と献血活動の取り組みに絞ってご報告いたします。

1. 敬老会・芸能発表会の中止と対応

9月19日開催を予定しておりました敬老会・芸能発表会は、コロナ感染症拡大防止のため中止いたしました。その代わりとして、75歳以上の敬老者にお祝い品の贈呈を検討し、377名に「お祝いの言葉」を添えて「500円のQUOカード」=写真=と「石内小児童からの感謝の作文」、また、石内地区防犯連絡協議

会より「防犯チラシ」や「メモ帳」をお贈りいたしました。

健康にご留意されてお元気にお過ごしされることを心よりお祈りいたします。



2. 献血活動について

10月2日（日）に（株）サコダ車輛のオイル钣金館を会場として400名が献血が行われました。コロナ下にもかかわらず33名の方のご参加をいただきました。特にサコダ車輛様には業務多忙にもかかわらず毎回献血活動に絶大なご協力いただいております。つきましては、献血活動への日頃のご理解とご協力に対して、石内学区献血推進協力会より感謝状と記念品（掛け時計）を贈呈いたしました。

さて、皆様方の献血へのさらなるご理解を深めていただくため概要について記述いたします。

血液はいまだ人工的に造ることができず、長期保存することもできません。病気や怪我など、患者さんによっては大量の輸血を必要とする場合があります。こうした輸血に必要な血液を確保するためには、一時期に集中することなく、定常的に1日あたり約13,000人の献血協力が求められています。献血者の年齢は16～69歳（65～69歳は60～65歳の間に献血された方）です。

献血の手順は以下の通りです。

1. 献血受付
2. 質問への回答
3. 問診／血圧・体温測定
4. ヘモグロビン濃度測定／血液型事前検査
5. 採血
6. 休憩

時間としての目安は、受付から休憩を含めて、1時間くらいと想定してください。

また、献血に行きますと、希望者には自分の採血された血液検査結果を郵送で知ることができます。この血液検査結果は、一般的な検査項目になります。詳細は割愛いたしますが、血液検査の種類や正常値などを知る事で自分の体調管理、健康増進に役立つ事が可能です。

どうぞ皆様方の献血への協力を宜しくお願いいたします。



迫田宏治サコダ車輛社長（中央）に大形会長（左）から感謝状と記念品を贈呈しました

石内児童館 来年5月開館へ室内改装工事着々

本校舎の空き教室を活用



1階の空き教室を改装して整備された集会室

石内小学校本校舎の空き教室に開設される石内児童館（仮称）の改装工事が着々と進んでいます。年内には終了、備品設置など準備を進め、来年5月1日に開館します。

本校舎2階の4教室を児童クラブ室、図書・工作室（一部が静養室）、遊戯室、事務室に、1階の玄関わき教室に専用の出入り口、2階への通路を設け、残りスペースが集会室になります。

児童クラブ室は現在、体育館横にある放課後児童クラブが使い、それ以外は児童館用として利用されます。遊戯室にはクライミングウォール（ボルダリングパネル）も設けられ、すべての部屋に空調設備もつきます。工事費は7,100万円。

石内遺族会 社協に15万円寄付 会員の高齢化で解散

石内遺族会（加古川辰男会長）は遺族の高齢化や世代交代による会員減少などにより活動継続が難しくなったことから、10月末で解散されました。解散に際し、石内地区社会福祉協議会に、石内小学校校庭で催される慰霊行事である盆踊り大会の提灯整備費として15万円を寄付されました。盆踊り大会は毎年8

月に、地区社協と石内地区連合町内会を中心とした実行委員会が開催しており、今後、提灯を更新する際に活用する方針です。

同会は旧石内村が昭和30年に浄土寺境内に建立した、明治以来の戦没者、原爆投下による旧石内村の犠牲者を祭る慰霊塔を管理、毎年8月6日に法要会を営んでこられました。解散に伴い、慰霊塔は浄土寺に譲渡、護持を委託され、同寺に1,116,041円を寄付されました。毎年、8月6日午前11時からの法要会は解散後も継続して営まれる予定です。

いきいきサロンに参加しませんか

日 程	内 容	講 師	場 所
12月22日(木) 13:30~15:00	からだが喜ぶ「ちょこっと体操」	健康運動指導士 久保 恵先生	新宮山荘
1月26日(木) 13:30~15:00	歌と健康のギター漫談	作詞作曲実演職人 風呂 哲州先生	石内公民館
2月16日(木) 13:30~15:00	元気なからだづくり	石内慈光園 管理栄養士 小笠原 直子先生	新宮山荘
3月23日(木) 13:30~15:00	みんなで防ごう悪質商法	広島消費者協会 室井 孝子先生	石内公民館

対象＝おおむね65歳以上の方。定員＝20人程度。参加費＝無料。申し込み・問い合わせ＝石内公民館（Tel 941-0120）・三和地域包括支援センター（Tel 926-0025）。主催：石内地区社会福祉協議会・三和地域包括支援センター・石内公民館 ※コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となる場合もあります。石内公民館では、上履きをご持参下さい。

編集後記

「80歳の壁」という本が話題になった。自立した生活のできる健康寿命の平均は男性72歳、女性75歳。その年齢を超え、一区切りでもある80歳ともなると、足腰が弱り、痛いところや病気も抱え、それまで普通にできていた事が、できないという状況に陥る。健康寿命が尽きたヨタヨタヘロヘロの時期を、「ヨタヘロ期」というのだそうだ。評論家で「高齢社会をよくする女性の会」理事長の樋口恵子さんの命名。「ピンピンコロリ」を期待する人は多い。が、ピンピンスタスタからいきなりコロリとはいかない。医療の進歩で、80歳、90歳のヨタヘロ期は長くなるばかりだ。では、このヨタヘロ期をどう過ごせばよいのか。十分な栄養を取れる食事、体力を維持するための運動、生活習慣改善、認知症予防など大事なことはいろいろある。樋口さんは一つ、コミュニケーションの重要性を説いている。体力が落ちると出歩く機会も減る。人と触れ合い、交流することが特に大切だという。「高齢者」が「幸齢者」になるためには、それぞれが工夫、何よりも努力が必要なようだ。(R)